

## くによしじょうしかんれんいせき 17. 国吉城址関連遺跡

所在地：三方郡美浜町佐柿地係  
調査原因：国吉城址史跡公園整備事業  
調査期間：平成 29 年 7 月 19 日～12 月 22 日  
調査主体：美浜町教育委員会  
調査面積：120 m<sup>2</sup>  
時代：中世末～江戸時代初期



位置図(S=1/50,000)

**調査の概要** 美浜町では、国吉城址とその周辺遺跡群を含む歴史的景観の保存整備を図り、史跡公園として活用するため、平成 12 年度より確認調査を実施しています。平成 29 年度第 18 次調査では、山城部本丸跡北西帯曲輪段と連郭曲輪群Ⅱ郭、堀切の接続部の様相確認と、城主居館跡南面で城域の南限を確認を行いました。

**遺構** 北西帯曲輪上段(5T 上段)は、過去の同段調査(1～4T)の成果と異なる結果となりました。これまでの成果から、上段帯曲輪段法面は自然岩盤を取り込んだ石垣造りと思われましたが、堀切と 4T を繋ぐ位置にあるこの付近からは、石垣痕跡は全く確認されず、急傾斜の土造りの切岸面が検出されました。上段天端面も、現状地面から約 80cm 下層と盛土が厚く、天端際からやや下がった切岸面で土坑を 1 基検出しました。土層堆積からも、石垣が築かれた痕跡はなく、切岸の急斜面に段々と土砂が堆積していく層と、その後一括して盛土した様相が確認されました。上段法面直下に下段平坦面に近い部分には、上段から落ちたとみられる巨石が 1 基ありました。

一方、下段部については、5T 下段からサブトレンチを北方向に設定し、6T から続く直線石垣の繋がりを確認しました。その結果、石垣列はⅡ郭下まで一直線に伸び、ほぼ直角にⅡ郭切岸面に沿って折れることが判明しました。このことは、下段帯曲輪がⅡ郭下にも廻り、Ⅱ郭も 2 段構造であった可能性があります。

ところで、5T 下段石垣面に関しても、これまでと様相が異なる状況を確認しました。これまでの調査で確認された石垣は全て、石垣の上部を崩して下部を埋めるという「破城」の痕跡が認められました。また、基礎部は地山から直接積み上げるものでした。今次調査で 5T 下段石垣の検出を進めたところ、当初はこれまでと同じく、石垣前面には崩落石垣層が被る状況と同一の痕跡が確認されたため、一部崩落石垣層の撤去を進め、下層石垣を確認しようとしていました。しかし、いくら崩落層を除去しても下層石垣が確認できず、拳大程度の石材が充填されているだけでした。

地山面は、石垣直下約 1 m 下で確認できましたが、やはり直上は拳大程度の石材が石垣下まで充填されているだけでした。土層断面や未掘削の崩落石垣層面を精査したところ、崩落石垣層とみていた石垣層の上部は、出土した石垣の下層築石面で約 50cm 張り出

し、平坦面が形成されていました。それより下層の地山面まで、一部築石と同様程度の石材を混ぜた拳大石材の石層が形成されていました。これまで確認された石垣の出土状況や築造状況とは異なりますが、今回確認された様相から推定されることは、根固めの拳大石材の石山を設け、築石を積んでいたとみられます。石垣高は、6Tの下段石垣の半分程度ですが、石山を含めればほぼ同高になります。石山については、

- i, 確認された地山の法面の傾斜がほぼ垂直に近いことから、石垣前の切岸面に石垣基礎を載せる段形成が出来ず、盛土的に根固め石層を形成してから石垣を築いた。
- ii, 根固め石層とみられる石山層の石材をみると、下半部に築石並の石材がみられることから、当初の石垣が何らかの事由で崩れ、崩落石材を土台として築き直した。

等の評価が可能と思われます。iとiiの両方の複合的な事象の可能性もあるでしょう。

『天正10年10月21日付丹羽長秀文書』(山庄家文書)にある文に、「城の修築を急げ」、「何が出来て、何が出来ないのか報告せよ」という一文があります。これまで若狭国になかった石垣築造に粟屋勝久が手間取り、丹羽長秀から叱咤された様子が窺い知れます。iiの可能性を漂わせる資料です。

**遺物** 遺物は、上下段とも数点が出土したのみです。磁器片(白磁、染付)と土師質土器片、甕片など、これまでの調査で出土しているものと同様に、16世紀中頃から末に比定されるものです。

**まとめ** 本丸北西帯曲輪段でも、II郭に上がる段や虎口等に近い位置、曲輪の接続部という重要箇所に対応する今次調査区は、他部位とは異なるという意識、意向が働いた痕跡を見ることができました。つまり、より重要性が高い位置であるからこそ、絶壁面に無理に石垣を築いたり、逆に全く石垣の痕跡が見当たらないにも拘らず、廃城時に遺構面を覆い隠す程の盛土をしたのではないのでしょうか。

なお、城主居館跡南面の調査は、石垣際からの湧水が激しく、湧水が減少する時期を待って、次回調査で再掘削します。

(大野康弘)



5T 上段 切岸面土層断面状況 (西南より)



5T 下段 石垣下拡大及び土層断面状況 (西より)